

媒体名: 読売新聞都民版

日付: 2008 年 6 月 20 日

渡辺さん、2003年に現地に設立されたフジ・山梨大鼓協会の要請で、翌04年から毎年1か月ほどフジ・山梨に渡り、日本人に和太鼓の演奏を指導してきた。教子手は10、20代の4世代のうち、渡辺さんが見たところ、日系人社会の結びつきは年々希薄になっており、「その反動からか、若者の間で、日本の文化や伝統にじかに触れてみたいという欲求が高まっている」といふ。

サンパロやリンガなど各市を巡回指導し、今では60以上の和太鼓グループが誕生している。現地で使う太鼓はほとんどが手作り。幅広のプラスチックの円筒に牛皮を張ったものだ。

帰国した後、メールで演奏法を尋ねられることも多く、渡辺さんは「どのケルアも熱心に活動している。フジルでの和太鼓の未来はとも明るい」と張り合っている。

式典会場は当日、2万5000人で満席になる見通し。1200人の演奏は、日本でもめったに見られない規模。にぎやかで荘厳な響きが、サンパロの空に舞い上がる。演奏曲は「絆」。渡辺さんと御訪問大鼓宗家の小口八さんの原作で、タートル通り、河国の強い結びつきを表現したという。

8月13、14日には、天邪鬼による凱旋公演が練馬文化センター（練馬1）で行われる。前売り券4000円。チケットおよび取り扱っている。

▲和太鼓の練習に励む若者たち(2007年3月、アヲジルで)(天邪鬼提供)

太鼓集團 田邪鬼」代表、
渡辺洋一さん49が、アラ
ジルで総勢1200人の若
い日本人を率いて演奏す
る。サンパロ市で21日に
開催されるアラジル日本移
民100周年記念式典。千
人太鼓」と銘打ち、2万ら
000人収容の大スタジア
ムで和太鼓を打ち鳴らすと
いう。渡辺さんは「ハラハ
ラ」と話している。

ブラジル・移民記念式典で

日系人々で和太鼓

